

桜前線

この冬の気温は全国的に高く、桜の開花予想も例年より早くなりそうです。

3月21日東京で開花。4月2日には仙台で、18日には青森で開花する見込みです。県内も4月上旬には開花の予想です。(開花日は標本木で5〜6輪以上の花が咲いた状態となった最初の日) teiki.jpの

お花見につきものなのがピンク・白・緑の3色のお団子ですが、この3色には意味がある事をご存じでしたか?
ピンク・・・桜の咲く「春」
白・・・雪の降る「冬」



緑・・・葉が生い茂る「夏」だそうで、「秋」がないですね。

「秋がない」＝「食べ飽きない」という意味が込められているのだそうです。

今年は「花粉」も早くに飛散しているようですが、花粉症の方は対策をしっかりとって満開の桜を見に出かけましょう!



桃の花

弥生3月。草木がいよいよ生い茂る月で、3日は「桃の節句」ひな祭りである。桃の北限は北海道まで延びているようだが、岩手ではあまり見かけない。

もう40年以上も前になる。新幹線が東京に向かう途中、福島あたりで山に続く丘陵がピンク色に染まる光景を車窓から見たことがある。「えっ、サクラか?」と思っただが桃の花だった。幻想的な光景に心が温まり、幸せな気分になったことを今でも覚えている。桃の開花はサクラとほぼ同じだが、サクラより少し早い。

宴の行事を行うようになった。これが、「桃の節句」の始まりである。この行事が「ひな祭り」のようになったのは寛永年間(1624〜1644年)のころである。

中国の晋の時代、太元年中武陵の獮師が桃林に迷い込み、山の小さな入り口から中に入ると、俗世と離れて暮らす村があった。そこは、平和で豊かな別天地で「桃源郷」という幻夢の世界であった。中国の小説『西遊記』に出てくる仙人も「桃の園」に住む。日本人と桃との関わりも古い。日本書紀には、伊弉諾尊(いざなぎのみこと)が、



桃は仙人の果実であった。それは、中国の漢の武帝に天下った西王母(長寿を司る神)が不老長寿のために桃7個を贈ったという故事に由来する。

その西王母の誕生日が3月3日で、この日に桃花餅・桃花酒・白酒を用い、曲水

る「病は居ぬ」「災は来じ」の思いからお供はサルとイヌとキジとなる。これが、江戸時代になって「節分の豆まき」につながっていく。



サクラの花は和歌に多く詠まれるが、桃は俳句に詠まれることが多い。

桜より 桃にしたしき
小家かな(与謝蕪村)
桃の花は豪華な屋敷に咲くサクラより貧しい小さな家の庭先に咲くのが絵になる。そう詠むのは、やはり画人の目だ。

ほうほうと声あげて
桃花ひく(大井雅人)
花が一斉に咲くさまを、まるで「ほうほう」と声をあげているようだ」と詠むが、

声をあげているのは作者のほつてもある。

野に出れば
人みなやさし 桃の花
(高野素十)

暖かい日差しに咲く桃の花は、のどかで優しい雰囲気を出し出す。野に出ている全ての人も優しくなる。

桃の生産量第1位が山梨県、次に福島県、長野県と続く。今年の3月3日は旧暦では1月23日、季節はまだ冬だ。新暦の4月10日が旧暦のその日あたり、そのころなら咲いている。まもなく産地の桃畑が桃色に染まる。その眺めは、別天地「桃源郷」のように見えるはずである。

《松園新聞「小言・たわ言 独り言NO.14」 令和6年3月号》
野中 康行

「忘れざる日々」
4月1日(月)発売です。
書店でお見かけの際は是非お手に取って見てください。

